

本書の対象者と本書の使い方

本書は人によって幾重にも活用の仕方が可能である。

- 英語で歴史を勉強したいと思っている方

- 趣味や生涯学習として読書や勉強を楽しんでいる方

何も指導しなくとも、読者の皆さんの興味だけで全てをあっという間に読みこなしてしまうことであろう。

- 英検やTOEIC®などの試験の読解力を鍛えたいと思っている方

- 英語の読解力をつけたいと思っている大学生

- 最上級レベルの大学入試を志す受験生

しっかりとした英語の構文力・読解力をつけたいと思っている方は左ページの英文を自分で訳してみてもどうか。その際に構文上のポイントは何かということまで留意できたら最高である。その後、解説や和訳と照らし合わせてみて、自分の英文読解は正しかったか確かめてほしい。

- 歴史は苦手だが英語は好きな方

- 英語の先生方

- 英語マニアの方

取り上げた英文を教材という視点で見えてみていただきたい。頻出構文と言われるものから、ある程度英語が得意な人でも陥りやすい盲点構文を集めていることに気がつけられるはずである。盲点構文としては、あまり世間の語学書で力説されていない〔見せかけのhave to〕や〔熟語くずし〕などの項目も取り上げておいた。

- 速度用の教材として

ほとんどの単語に注をつけてあり、辞書を使えない環境（例えば電車の中）でも十分読み進んでいけるはずなので、速読用の教材として使ってもらってもよい。

- 大学の教材・進学高校の副読本として

本書は全体として一貫したストーリーになっており、英文読解が必要

な必修構文を網羅していて、読み応えのある英文になっているので、大学の教材や進学高校の副読本としても活用できる。

- 英語は苦手な歴史好きの方

- 戦国（日本の戦国時代）マニアの方

- 信長・秀吉・家康に経営のヒントを求めたい方

- 歴女のお姉さん

- NHK大河ドラマなどの歴史番組視聴者

左ページの英語関係の部分は無視して、右ページの歴史に関連する部分だけを一通り読んでいただいても構わない。右ページだけでも日本の戦国時代の流れがわかり、【歴史の視点】では、フィクションと実際の違いなど興味深いエピソードを楽しんでいただける内容になっている。また、巻末の年表は戦国時代の研究に取り組みたい方や戦国史を舞台にしたテレビドラマを視聴する際には大いに役立つものと思う。

- 英語で日本の文化を伝えたい方

歴史に興味のある方であれば、本書に出てくる程度の歴史用語は知っているはずなので、それを英語でどう表現するのかという観点で英文や英単語熟語を見ていただきたい。意外と簡単に表現できるものもあれば、言葉を補って説明しなければならないものもあることに気づかれることだろう。本書を参考に説明能力を高めていただきたい。